

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100933		
法人名	有限会社 グッドウィル		
事業所名	グループホーム 武佐の杜		
所在地	北海道釧路市武佐1丁目9番24号 (電話) 0154-46-2626		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年3月3日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】(平成21年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年12月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	14人, 非常勤 6人, 常勤換算 10.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低	57 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠矢クリニック、伊藤隆志歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

共用空間には茶筆筒・ちゃぶ台・ラジオなどの懐かしい家具が置かれ、思い思いに過ごせるようにソファが配置され楽しげに歓談されています。管理者を中心に職員は話し合いを重ねながら利用者本位に過ごせるように、ゆったり、楽しくを心掛け、予防にも力を入れ、棒体操・転倒予防体操・嚥下体操などを取り入れています。町内会長をはじめ婦人部の方から働きかけがあり、避難・消火訓練での参加や協力、町内会長には災害時の緊急連絡先になってもらい不測の事態に備えています。ホーム内で町内会主催の「いきいきサロン」を開催し、そば打ちを利用者と一緒に行いながら交流を深め、転倒予防教室や盆踊り大会などの地域の行事も積極的に参加しています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善点については、地域密着型としての理念と運営推進会議の定期的な開催でしたが、ホーム理念に加え地域密着としての理念も作られ、定期的に運営推進会議を開催しており、町内会との連携も強化され改善されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価表を全員に配布し、記入して貰い、管理者がまとめて作成しています。評価の結果は、真摯に受け止め、改善に向けて職員全員で話し合い取り組んでおり、来訪した方がいつでも見れるように入口の近くに掲示しています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) ご家族、町内会長、民生委員、包括支援センター、ホーム長、事務長、介護支援専門員、職員、看護師等が参加し実施されている。主な主題は外部評価の結果 町内会長・包括職員より情報提供や行事案内・報告 避難訓練・災害時の対応について 行事案内・報告について ホームの食事の試食と市の保健師からの塩分濃度・献立等栄養指導
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月ホーム通信の「武佐の杜 かわら版」で利用者の日頃の暮らしぶりや行事の様子、金銭出納を報告をしています。来訪時には気軽に話せる雰囲気作りを心掛け、状態の変化があればその都度、電話で詳細に報告しています。家族会で意見や不満を出して頂く機会を作っており、運営推進会議に家族の代表が参加し、外部の方々にも聞いて頂く機会を作っています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会長や婦人部の方からの働きかけがあり、避難・消火訓練での参加や協力、ホーム便りは町内会長の協力で、配布・回覧して頂いており、災害時の緊急連絡先にもなって貰い不測の事態に備えています。ホームで町内会主催の「いきいきサロン」を開催し、そば打ちを利用者と一緒に行いながら交流を深めています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	もともとの事業所の理念に加え、地域密着型としての理念も掲げ、地域に根ざして互いに支え合えるホームを目指し、実現に向けて努力を重ねている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は入り口に近く目につきやすい場所に掲示され、フロア会議などで理念について話し合い職員全員で共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会長や婦人部の方からの働きかけがあり、避難・消火訓練での参加や協力、ホーム便りは利用者と共に町内会長に届け、配布・回覧して頂いており、災害時の緊急連絡先になって貰い不測の事態に備えている。町内会の「いきいきサロン」を開催し、そば打ちを利用者と一緒に行いながら交流を深めている。		転倒予防教室や盆踊り大会などの地域の行事に積極的に参加しており、今後は介護予防教室等も開きたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全員に配布し、記入して貰い、管理者がまとめて作成している。評価の結果は、真摯に受け止め、改善に向けて職員全員で話し合い取り組んでおり、来訪した方がいつでも見れるように入口の近くに掲示している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、家族会会長・民生委員・包括支援センター、ホーム長・事務長・介護支援専門員・職員が参加し、2か月に一回開催されており、会議を通して地域との連携が図られている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務長は必要時に市の担当者と連絡を取り相談し、指導・助言をいただいている。また、毎月発行する「武佐の杜 かわら版」を届け、日常の様子等も伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホーム通信の「武佐の杜 かわら版」で利用者の日頃の暮らしぶりや行事の様子、職員の異動などを載せており、金銭出納についても報告をしている。状態変化についてはその都度電話連絡で詳細に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には気軽に話せる雰囲気作りを心掛け、家族会で意見や不満を出していただく機会を作っており、運営推進会議に家族の代表が参加して、外部の人にも意見を聞いて頂く機会を作っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は離職者をなるべく出さないように職員の思いを聞くなどの取り組みを行い、やむなく離職した場合には職員に時折顔を出して貰うようにして利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会に入り様々な研修に参加している。行けなかった職員には会議時に時間を作り研修報告会が行われている。協議会の研修以外にも、成年後見制度など様々な研修にもできる限り参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入り、交換研修などを行っている。様々な研修や勉強会を通じて交流ができるようにしているほか、ボーリング大会などにも参加している。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族と共に入居前に見学をしていただき一緒にお茶を飲んだりお話をしたりしながら雰囲気馴染めるよう配慮している。また、数日間のお試し入居などを行い、ホームに馴染んで貰えるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段の生活の中で利用者と共に食事の準備や後片付け・掃除・洗濯物干しなどを行っている。また、芋植えの方法など畑仕事の仕方を教わったり、案内文書の添削をしていただくなど、できることに着目し支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話の中から買い物、外食、パークゴルフ、銭湯など本人の希望や意向をくみ取り、思いに近づけるように努めている。また、センター方式を活用し、気がついたときには誰でもが記入するようにして思いに気がつきやすいようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員は介護計画に添ったケアを意識し、記録の記載も、介護計画書に基づくケアは色分けし確認しやすいように記入している。日常の会話などの中から本人とご家族の希望を聞き取り、担当者が基本になる介護計画案をたて、介護支援専門員と相談し、会議で他職員からの意見を取り入れながら介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は定期的に評価と見直しが行われている。また、利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>地域の介護予防サークルへの参加、銭湯に行きたいなどのご希望に添えるよう柔軟な対応を心がけている。また、町内のいきいきサロンの会場提供なども行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医があり、相談・助言を受けている。往診や医療の訪問看護などもあり体調不良時などには連絡をとりながら適切な医療が受けられるよう支援されている。職員として看護師も勤務している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期にも可能な限り対応している。医療機関と連携して利用者・家族とも繰り返し相談し合いながら慎重に検討対応する取り組みがされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人にわかるような語りかけや対応を心がけている。記録や個人情報に関するものは決められた場所で保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物・散歩・銭湯・ドライブ・レクリエーションなどその日のペースや希望に添って生活できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中で好みのもの、その日に食べたいものなどを聞きながら献立を考えたり、食事の下準備、下膳、食器洗い、片づけなど本人の力を活かしながら一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に決めているが利用者の希望に応じて対応している。現在は夜間入浴の要望はないが希望があれば行っている。一人ひとりの希望の温度や入浴時間にも対応している。大きなお風呂の好きな方には銭湯に行くことができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の食事のメニューを書き出してもらったり、案内文書の添削や食事の準備などの他、天気の良い日には毎日ご自分の布団を干す方など、それぞれのお得意なことや興味に応じて支援している。棒体操・転倒予防体操・嚥下体操なども日課にしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに大型スーパーやコンビニ、公園などがあり、本人の希望に添って散歩や買い物などの支援を行っている。また、庭や畑仕事・ベランダでの日光浴など、できる限り希望に添って出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の行動を見守り、鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者が外出する時は、職員がさりげなくついていくことで安全面で配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難・消火訓練は年2回利用者や町内会の方たちも参加して行われている。夜間想定訓練も行われている。緊急連絡先には町内の方にも入っていただき、災害時には駆けつけてくださる体制ができている。		地域の方も巻き込んだ、徘徊時早期発見のための働きかけを検討している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良いメニューになるよう心がけ一人ひとりが食べる量を配慮しながら配膳している。水分は個別のペットボトルをテーブルに置き摂取量を記録している。市の保健師に献立と栄養の指導もしていただいた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間には、古い茶箆筒・ちゃぶ台・ステレオなどが置かれ、季節のもの、手作りのものなどが飾られている。広い廊下には椅子やテーブルが配置され一人になったり利用者同士談笑できるスペースが確保されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居前に使われていた馴染みの家具や冷蔵庫、机など好みのものが置かれている。仏壇・位牌を持ってきていらっしゃる方もいて、毎朝お霊供膳をあげる方もいる。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。